



かわら版

第5号

平成26年11月
発行 NPO法人あきたNPOコアセンター

◇「協働」について 考えよう!

話し合いから実践へ！
アクションプランの創造を

平成26年10月28日(火)アルヴェを会場に、「エイジフレンドリーシティカレッジワークショップ」の第5回目が開催されました。最終回となる今回は、これまで話し合ってきた内容を実践へ移すためのアクションプランを考えていきました。Aグループは「雪の問題を含む町内活動の活性化」について、Bグループは「地域運営への参画をどう進めるか」についての課題設定をしました。

アクションプランをたてるにあたり「ロジックモデルフローチャート」というフレームワークを使い「将来像」「近未来」「事業」「資源・財源」などに分けて意見出しを行いました。

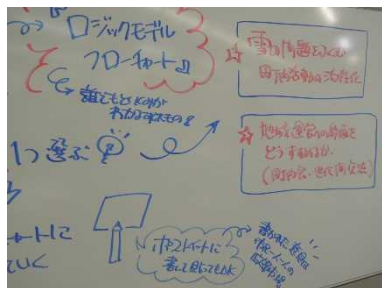
誰でも取り組みや活動が見える、便利なフレームワークです!

協働のクリアBOX
ロジックモデル・誰にでも取組や活動が見える

利便性の課題(現状)	資源・財源(担い手・役割)	事業(課題解決)	近未来(目標)	将来像(目指す姿)
夜、町全体が暗く不安	予算と実際のコスト	安全安心なまちづくり 1)街灯を増やす 2)パトロール隊で巡回	新しく設置された街灯数 巡回の回数	いつでも安心して歩ける町 安全な道路の割合
夕方、稼働が見えにくい	役割分担(協働)	シェアードアウトカム	アクション(結果) 期間計画 アウトプット 行政実績	波及効果 社会的変化 中長期計画 アウトカム 政策効果
データ出し・検証	インプット			

プランニングネット東北 中橋広とあきたNPOコアセンター 小西

Aグループでは「町内会が自分の居場所に」を将来像にあげ、除雪マップをつくる、雪かきを学生の部活の体力作りとして組み込む、交流の場をつくるなどの事業案が出されました。



Bグループは「文化とスポーツでつながる地域」を将来像に、地域サロンや、芸術・スポーツの対抗戦、リーダー研修や地域作り勉強会の開催などの事業案が出されました。

ワークショップの総括としてファシリテーターより、「フリーライダー(傍観者)を減らすことや、人ごとを自分事に考えていけるような住民の自立、地域を考え積極的に関わっていく「市民(シチズン)」になること、自分たちで出来ることを理解し、行政との役割分担を考え協働していく姿勢が大切」とのコメントがありました。また、ガストの東京大学高齢社会総合研究機構特任助教の後藤純さんより、「Bグループの事業案にアドバイスをいただいたほか、「地域住民自治型協働のまちづくり制度」や岩手県釜石市の仮設住宅の自治会における見守り体制の事例紹介がありました。

高齢者に優しい都市、エイジフレンドリーシティの実現には、身近な自治会などによる地域活動の活性化がキーワードのようです!

